

学 園 だ よ り

# 太 白 山

(令和2年5月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 新年度挨拶

園長 平間 幹夫

今年四月に、宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所から当学園の園長で参りました。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、四月十六日には全都道府県に緊急事態宣言が出されました。感染予防対策の徹底、「三つの密」をつくらない、不要不急の外出を控えるなどが求められ、当学園でも職員や子どもたちができる限りの対策を取っています。

令和二年は本来なら東京オリンピック・パラリンピックイヤーで、全世界のアスリートが日本に集結し、すばらしい熱戦を近くで見られる絶好の機会でしたが、残念ながら一年延期になってしまいました。子どもたちも予定していた行事・イベントが延期や中止になり、なかなか前向きな気持ちになれない子もいると思います。しかし、このような時こそ、私たちが「ONE TEAM (ワンチーム)」になって自分ができる対策を講じていけば必ず終息に向かうと信じています。

四月から子どもたちは学年が一つ

上がり、または上の学校に進学しました。上級生が自覚を持ち、下級生に教える姿が見られます。たいへん頼もしく感じます。子どもたちはやがて成長し社会に出ていきます。社会の中で人間関係やコミュニケーションを保ちながら生きていくこととなります。自分本位ではなく相手の立場になって物事を考えられる大きな大人になってほしいと思います。

今後とも、分教室、児童相談所、保護者や地域のみなさんと連携しながら、子どもへの適切な支援を行ってまいります。これからも学園に対して御理解と御支援を賜りますようよろしくお願いします。

## 新年度挨拶

分教室教頭 太田 博文

四月の異動により、旗立分教室に着任いたしました。よろしくお願ひいたします。

令和二年度のスタートは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染リスクをなるべく下げる工夫や学習環境を整えてからのスタートとなりました。

近年、少子高齢化や地域・家庭のつながりの希薄化が進むとともに、社会

的孤立や子どもの貧困等が社会問題になるなど、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきています。

そんな社会状況と比例するかのようには、子どもたちの措置理由も多様化・複雑化し、自立に向けた支援も一人一人に異なった対応が求められています。私たちは、それらを学園の先生方と連携し、「報告・連絡・相談」を大切にしながら共通理解を図り、分教室での指導方針にも反映させ、子どもたちの自立に向けた支援に携わっています。

さて、「自立を支援する」ことについて考えた時、花を育てることに置き換えることができるのではないかと思いました。

花を育てるには、土が必要です。水が必要です。日光が必要です。タネが必要ですが。

土は「環境」、水が「愛情」、日光は「周囲からの影響」、タネが「子どもたち」です。

花を育てる時、芽が出たら、無理矢理引っ張って大きくさせるものではありません。土と水と日光を正しく与えることが必要です。土が悪ければ根を伸ばすことができず、水が不足すれば枯れ、日光の向きが変われば花の咲

く向きも変わります。

現場の最前線で子どもたちと関わりが持っている私たちが、土「環境」、水「愛情」、日光「周囲からの影響」を、子どもたち一人一人の成長に合わせて与え、そして、きちんと向き合っていくことが必要だと思います。

予測不可能の時代となってきた今だからこそ、私たち教職員が子どもたちを「広い目、長い目、多くの目」で見つめ、育てていくことが大切なことだと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

## 今、目指していること

指導班長 田中 佳二

学園の生活は「集団生活」を基本としています。子ども達が他者を意識し、相手の気持ちに気づいたり、自分の気持ちを自覚できたりすることで、「今の自分は何が得意で、何が苦手か」といったことや、「困ったときは相談すれば解決できるんだ」といったことを、生活を通して、自分の感覚として身に付けていきます。

ただ、それらを身に付けるためには、子ども達ひとり一人が「学園が、僕の、私の居場所」にならなければいけない

と思っています。「居場所」とは、安心感や満足感、「もつとこうしたい」と思える意欲が生まれる場所。いつも見ていてくれる、守られている、大切にされているという感覚が自然と湧いてくる場所だと思います。

職員が子ども達に関心を持ち、出来た時には大いに褒め、出来なかったことは「どうして出来なかったのか」を一緒に考える、ダメなことはダメであると伝え続け諦めないことが、双方向の関係を生み、子ども達の「居場所」を作っていくことにつながっていきます。そして、職員と子どもとの協働関係が、子ども同士の仲間意識を育て、子ども達ひとり一人の自尊心を育てていきます。これからも、学園が子ども達にとって「成長できる場所」となることを目指していきたいと思えます。

## 新入学生作文

「中学校生活への抱負」

児童 Y

私は中学生になってがんばりたいことは、三つあります。

一つ目は、勉強です。得意な理科と数学はもちろん、苦手な勉強もがんばりたいです。苦手な教科は、社会と国

語と英語です。社会や国語で分からないところは、すぐ先生に聞きたいです。英語は単語の練習をがんばります。

二つ目は、運動です。私は運動でも特に野球が好きです。野球はセカンドをやっていたので守備はそこそこできますが、バッティングがうまくいきません。教えてもらいながら上手になれるよう練習したいです。また、声も出さないと野球はうまくならないと思うので、声を出してしっかり取り組んでいきたいと思えます。

三つ目は、生活です。以前は注意されるとイライラしてしまい、先生や友達との関係が悪くなることがありました。これからは、一回で素直に注意を聞きたいです。

以上のことを目標に、中学校生活をがんばりたいと思えます。先生方、先輩方、ご指導よろしく願います。

## 新・広瀬寮より

広瀬寮長 我妻 敬徳

「光陰矢のごとし」との言葉がまさに当てはまる寮勤務四年目となりました。当然のことながら一日として同じ状況はなく、常に新しい動きを見せてくれる児童とともに過ごす時間は、一ヶ月、一年があつという間です。(た

だし、一時間単位はとても長く感じるのはとても不思議なのですが・・・) さて、今年度の広瀬寮は異動者が二名、継続者が五名、新任者が一名の六名体制です。二十代前半の若手職員が三名在籍しており、彼らのスピードメーカーなフットワークを武器に、それぞれの職員が持ち味を加えながら児童との大切な時間を過ごしています。

現在の児童数は五名ですが、ご存じのとおり様々な事由で入園しており、私共は児童個々の状況や特性を十分に理解した上でフレキシブルな指導を常に心がけねばなりません。コロナウイルス感染症絡みにより、実質的に様々な制約を受けている状況ではありますが、それでもたくましく健康に過ごしている彼らの心情に寄り添い、来たるべき退園とその後の安定した生活を願いつつ、彼らと一緒に時間を共有して参りたいと思っております。

## 編集後記

子どもたちは新型コロナウイルスによる制限の環境下で課題に向き合いながら生活をしています。今年度もさららび学園をよろしく願います。